

各 位

2024年11月11日  
株式会社リットーミュージック

バンド結成40周年を迎えた ZIGGY のヴォーカリスト、森重樹一が激動の半生を振り返った書籍『辿り着いた場所 森重樹一 回想録』が発売！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『追り着いた場所 森重樹一 回想録』を、2024年11月11日に発売します。

1980年代後半にデビューし、派手で煌びやかなファッションと卓越したメロディ・センスのロックンロール・サウンドで大きな人気を獲得したロック・バンド、ZIGGY。本書『追り着いた場所 森重樹一 回想録』は、その創設者にしてヴォーカリスト、ソングライターである森重樹一が、その激動の半生を語り下ろした回想録です。

幼少期の音楽体験から ZIGGY 結成に至る流れ、メジャー・デビュー後の葛藤、ヒット曲が生まれたことでもたらされた栄光、メンバーの脱退・加入・復帰、そして活動休止という紆余曲折を経た

現在の ZIGGY についてのほか、自身の歌唱や曲作り、楽器への想い、アルコール依存症についてなど、波乱に満ちたこれまでの歩みを、ときに哲学的な思索を交えて現在の視点から振り返ります。



【第一巻】幼少期～バンド活動のはじまり

かねえものだな」ということだった。30歳の時分は、まだ自分の手で人生をどうにかしようと思っていた。ただ、そこで「40代でこうなり、50代でこうなり、還暦までにはこうなっていない」という理想を淡々と思い描いてみたところで、実際そんな風にはいかないのだと徐々に理解できるようになってくる。年齢を重ねて、経験値が期待値を超えていくことになるからであり、根拠のないウイジョンのようなものは通用しないことを経験値が自分に説明してくれるようになるからだ。要するに、いつまでも夢見がちはいけないとわかってくるわけだ。

とはいえ今になって後悔ばかりが膨らんでいるというわけではなく、逆に近年の俺は、ここまで来られてよかったと思うこのほうが多い。父親が55歳で亡くなったという事実も大きいだろう。自分がその年齢を超え、現地まで生きて辿り着けたこと、しかもその過程で自分のやるべきことはいくつかをやり遂げられたことを実感できているからだ。

たとえば自分が思い描いてきた願望が100個あったとして、そのうち実際にいくつを達成できたかは確認しようもない。ただ、おそらくその半数近くは叶えられなかったんじゃないかと思ってる。もっと言うならば、森重樹。という人間の半分はいわばパブリックな存在としてのもので、私人としての部分は残りの半角。私人としてクリアできたことは、本当に数えるほどしかない。ただ、ミュージシャン／アーティストとしての人生について言うならば、50のうち45はやりることができたんじゃないだろうか。こうして活動を続けながらも、いつ死んでも本望だと思えるところがあるのは、そうしたい

還暦を超えて

2023年8月28日、俺は60歳になった。いわゆる還暦を迎えたわけである。

たぶん30歳になろうとしていた頃には「俺ももう30歳になつたのだ」という思いがあった。その年齢になること自体について、とてもナーバスになっていたのだ。ただ、今の自分にとっては、それが功を奏したところもあるように思う。60歳というものは、30歳×2周でしかないという捉え方ができているからだ。

確かに30年前の自分には、30歳という年齢があり、それが人生におけるひとつの分岐点だと解釈していた。今の若い子たちからみれば20代後半になった時点ですでにおさんなりたのかもしれないが、そうした自分の人生に余白が残されているという認識だっただけだ。ただ、当時の俺には30歳という年齢自体について否定的なところがあった。その年齢を超えてはいけない、超えるならば何かしら特別な形で自分を維持できなければならぬという強迫観念めいたものがあつたのだ。それは、ロック史における多くの偉人たちが若くして命を落としていたこととも無関係ではなかったかもしれない。逆に言えばそうした考え自体が、単なる若気の至りだったのかもしれない。

ところが実際に30歳を過ぎ、40歳、50歳も通過してきて悟つたのは「ああ、人生って思うようにい



生後3ヵ月の頃。



生後8ヵ月の頃。

達成感が自分のなかにあるからだと思う。  
だからこぼれは、60歳を過ぎた先の人生はある意味ママのようなのだと考えている。選べるという地点まで到達することができたのは、自分なりの努力の結果でもあるが、間違いないまわりからの大きな支援があったからこそでもある。そのおかげで俺は「最低でもこれくらいはクリアしたいよな」というラインを超えることができたのだ。もちろん極力してくれた人たちは、応援してくれた人たちはかりではなく、途中で匙を投げた人たちもいたし、そんな人たちの顔が不意に浮かぶこともある。ただ、その人たちが匙を投げた理由もわかる気がするし、さうやって途中で投げ出した人たちはいたからこそ、こうしてここまで来られたんじゃないかという思いもある。だから共感や賛同の意を示してくれた人たち以外に対しても感謝の念を抱いているし、もっと言うなら、まず根本には両親に対する「健康に生んでもらってよかったな」という気持ちがある。

なお、書籍のみの通常版のほか、スペシャル・ボックス版も発売。スペシャル・ボックス版は、書籍にメジャー・デビュー以前の森重を育んだ思い出のライブハウスやスタジオを再訪して撮り下ろした28ページの中綴じ写真集とメッセージ・カードを付録して三方背ケースに収めた仕様となり、貴重な写真の数々もファン必見です。



— 府中 Studio PASTEL —

当時のパステルは、今は違うロケーションにあった。かつての場所にはパステルがもうないという事は知っていた。かつてき東八道路をすり抜けて出てくれば、偶然今の名店の看板を見つけた「あれ？」と思っただけは、あのパステルなのかしらと、ZIGGYを結成し、一番最初のオリジナル・メンバーであり、パステルをやっていたスタジオが、かつてのパステルだった。みんなを極楽しながら、どういふものを作りたいかと、曲作りを始めたのがこの場所だった。今でも現在の店長さんとは年齢が近かったこともあり、当時「俺はスタジオに入って曲のコンビをしたりもしていた」といふことを思い出す。去年、当時「俺に音を出していたオリジナル・メンバーがなくなってしまったこと、あの本人で音を出したことが大切さという点、重要さを改めて感じている。その後、ZIGGYはいろんな地域から集まったメンバー編成へと変わっていったことで、オリジナルの場所も「川や井戸」に変わっていき、やがてオリジナルの場所も、それももちろんひとつの原点ではあるが、またたく動いていないのを動かす、という意味で、やっぱりZIGGYはあの場所から始まったと思う。





『辿り着いた場所 森重樹一 回想録』  
(通常版)



『辿り着いた場所 森重樹一 回想録』  
(スペシャル・ボックス版)

#### ■書誌情報

書名：『辿り着いた場所 森重樹一 回想録』

著者：森重樹一

仕様：四六判／256 ページ

定価：2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）

発売：2024 年 11 月 11 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124343009/>

#### ■書誌情報

書名：『辿り着いた場所 森重樹一 回想録』 【スペシャル・ボックス】

著者：森重樹一

仕様：四六判／256 ページ

定価：5,000 円（本体 4,545 円＋税 10%）

発売：2024 年 11 月 11 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124343010/>

※書籍に28ページの中綴じ写真集とメッセージ・カードを付録し、三方背ケースに収めたスペシャル・ボックス版。

#### CONTENTS

●第一章 幼少期～バンド活動のはじまり

還暦を超えて／父の記憶／歌うことへの興味と曖昧な夢／初めて与えられた、自分の“特性”／洋楽ロックへの接近／ギターへの憧れ／ギタリストとしての挫折／“憧れ”への階段／キッス武道館ライブの衝撃／リアリティをともなった憧れの対象／合理主義者の優等生／父親の死／土曜日の一限目のフランス語／ZIGGY 結成前夜の頃

## ●第二章 メジャー・デビュー前後

ランディ・ローズと松川“RAN”敏也／ヴィジョンと経験／最新のものに飛びつくべからず／バンド名がもたらしたものの／結成当時のメンバーについて／戸城憲夫の合流／デビュー時のメンバーに／憧れの画のなかに当てはめた自分／『それゆけ！R&R』／バンドを取り巻く大人たちと葛藤／デビュー・アルバムの制作／浮かれきれない重り／メジャー・デビューはしたけれど／“当たる商品”との距離感／“バッドボーイズ・ロック”の功罪

## ●第三章 ZIGGY での成功と挫折

バンド・ブームを前に／無作為がもたらしたヒット／初めての日本武道館公演／変わりゆく客層／テレビのなかに／面白おかしさのなかの本質／第二の氷室京介になりたいか？／チャート 1 位の意味／休暇届の真相／問題作『YELLOW POP』／自分探しの乖離／松尾、大山の脱退／ふたりになって／移籍と 3 人体制への移行／起死回生の一手／戸城の脱退／ZIGGY としての行き詰まり

## ●第四章 アルコール、歌、曲作り、ギターのこと

アルコール依存症／自分の声とは／ヴォイス・トレーニングの効能／曲を作るということ／愛するギター

## ●第五章 ソロ活動～現在、そしてこれからの ZIGGY

ソロ活動と ZIGGY／ZIGGY を掲げる意義／“故郷”ではない ZIGGY／これから歌うべきこと

## ●森重樹一 ディスコグラフィ

### PROFILE

森重樹一（もりしげ・じゅいち）●1963 年 8 月 28 日生まれ、東京都国立市出身。1984 年にロック・バンド ZIGGY を結成する。1987 年にメジャー・デビューし、派手で煌びやかなファッションと卓越したメロディ・センスのロックンロール・サウンドで、後続のバンドにも大きな影響を与えた。「GLORIA」、「I'M GETTIN' BLUE」、「STAY GOLD」、「Jealousy ～ジェラシー～」などのヒット曲はほとんどが彼の手によるもので、ソングライターとしての評価も非常に高い。ZIGGY のほか、The DUST'N'BONEZ や THE PRODIGAL SONS などのバンドで活動してきたほか、ソロ・アーティストとしても 16 枚のアルバムを発表している。2024 年はバンド結成 40 周年を迎え、10 月 23 日にニュー・アルバム『For Prayers』をリリース。リリース後は全国ツアーを開催中。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)